

# 重要情報



号外 発信日 平成30年7月30日

由利地域振興局農林部農業振興普及課 TEL:22-8354  
NOSAI由利 由利農業共済組合 TEL:24-3301  
JA秋田しんせい 営農生活部 米穀課 TEL:27-1601

## ～高温注意！十分な水管理を～

全国的に猛暑が続く中で、しんせい管内でも連日の高温で稲体への影響が懸念されております。出穂期の段階は水を多く必要とする時期です。登熟を促進するために、稲体は水分と養分を多く消費します。そのため水分が不足すると葉色の低下や枯れ上がりが発生します。さらに根の活力も低下します。これらを補うために水の供給が非常に重要となります。管内の圃場では概ね幼穂が確認され、早い場所ではすでに出穂直前となっている圃場があるにも関わらず、田面が乾燥してひび割れている圃場が散見されております。水分が一番必要な時期に供給されない場合、稲体は水分不足によるストレス状態となり収量だけでなく品質の低下も招く原因となりますので、水が入っていない圃場に関しては直ちに入水して下さい。

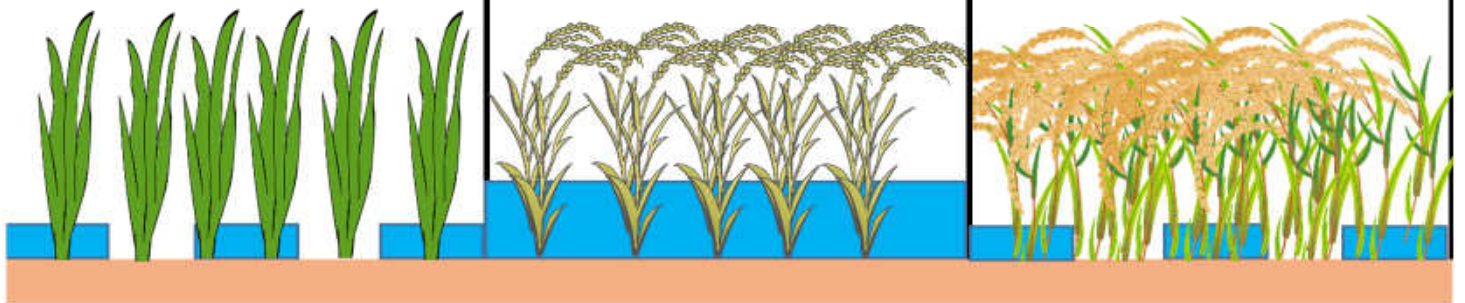
また、水管理の方法としまして出穂までは間断かん水として下さい。出穂後10日間は5cm～6cmの水深で湛水状態として下さい。その後は2cm～3cmの浅水で間断かん水を行って下さい。また気温が30度を超えるような日には根の活力低下を防ぐため、かけ流しかん水を行い、地温を下げるようにして下さい。フェーン現象のような乾燥した風が強く吹く場合は湛水状態として下さい。

### ※間断かん水イメージ

**幼穂形成期及び減数分裂期**  
間断かん水とする  
2日間入水3日間落水を基本とする  
水深2cm～3cm

**出穂期**  
出穂後10日間は湛水状態  
水深5cm～6cm

**登熟期間**  
出穂後10日以降は間断かん水とする  
水深2cm～3cm



## ～いもち病防除について～

しんせい管内でもいもち病の発生が確認されております。葉いもちが発生すると、出穂後の穂いもちに感染するリスクが高まりますので、圃場を今一度確認していただき、葉いもちが見られた場合は直ちに防除をお願い致します。また、葉いもちの病斑のようなものが見られましたら、最寄りの営農センター又は本店の営農生活部米穀課までご相談いただくようお願い致します。

また、上記のような情報等を稲作メールマガジンでも配信しておりますのでご登録いただき栽培管理の参考としていただければ幸いです。また登録方法で不明な点がございましたら、営農生活部米穀課までお問い合わせ下さい。

